

地域連携
携深め

維持管理の使命果す

福井県コンクリート診断士会

設立10周年 記念講演会開く

130人参加し盛大に節目祝う

福井県コンクリート
診断士会（石川裕夏会

長）の設立10周年記念
講演会は22日、福井市

大手3丁目 開催され、正会員をは
じめ石川、富山の等し

く診断士会員、行政関
係者ら計約130人が
参加して節目を祝い、
この機に改めてコンク
リート構造物の劣化と
維持管理の重要性を学



石川裕夏会長あいさつ



記念講演する金沢大学の鳥居和之教授

反応性の疑いがある骨材の使用地域（北陸）では、地域指定が必要。川砂、川砂利（常願寺川、九頭竜川）の使用では現行のASR試験法の見直しとASR抑制対策が不備。最近のASR事例の発生では事例公表、管理者の説明責任、橋梁の長寿命化が必要。課題では骨材の岩石・鉱物学的検討とASR試験法の見直し。アルカリ総量規制値の見直し。混合セメント（FA）の積極的な活用（地産地消）を図る。北陸には（維持管理を研究する）題材は豊富に存在し、うまくいけば全国にも必ず通用する。

混合セメントで地産地消図る



金沢工業大学の宮里心一教授

半永久ではない、任意の時期まで、限られた予算で安全に、コンクリート構造物を維持管理するシステムを構築する必要がある。作用環境や劣化速度の空間的分布に関する情報を高い簡易・広範囲・定量的に取得できる信頼性の高い調査方法を確立。予防保全では外観調査による診断が困難なため、非破壊調査を活用。トータルコストも考慮した、新たな運用システムを確立。構造物群に対する予防保全では、とくに今後は材料劣化に関する性能のみならず材料劣化に起因した力学性能にも着目すべきである。

予防保全は力学性能にも着目

んだ。公益財団法人福井県建設技術公社が共催した。

冒頭、石川会長は

「設立以来、会員の資質向上の各種研修会はもちろん、地域密着型で地域に根ざした活動を続けてきた。地域のことを良く知るコンクリート診断士こそがコンクリート構造物の維持管理を担っていくべき。インフラの老朽化

13人から現正会員は90人、賛助会員は個人3人、法人19社に及ぶ。続いて記念講演として

金沢大学理工研究域環境デザイン学科の鳥居和之教授が「北陸地方におけるASR（アルカリ骨材反応）の現状と維持管理の最新技術」をテーマに。また

金沢工業大学環境・建築学部環境土木工学科の宮里心一教授も「北陸地方における塩害の現状と維持管理の最新技術」を説明。両氏とも長年の研究の成果や課題を披露し、鳥居氏は技術（研究）者を育てる重要性や老朽化する橋梁数が多い点は「そもそも安楽死させる橋を決める時期にあり、すべてを保つ状況から減らす方向へ」発想の転換を促した。宮里氏はフライアッシュ（石炭灰を混ぜたコンクリート）は腐食を遅延させる効果がある研究成果を様々紹介した。

大きな社会問題化するなか、地域の構造物に愛着をもって社会的な使命を果たしていく。当士会の一大特長は地域との強力な連携を基軸とした活動にあり、これを福井方式として誇れる形で発信していきたい」などと力強く挨拶。同会は04年全国に先駆け発足。この間、各種研修会は54回開催。地元自治体や大学、他団体と協働を進め、コンクリート診断士の受験者支援など活動を積極化。当初の